

体調管理 感情もまとう

第4部 暮らし新潮流 体の信号感じる服

日本経済新聞 朝刊

2018年2月8日 2:30 [有料会員限定]

1月下旬、僕（41）のタブレット端末に毎日、自分の心拍数がリアルタイムで表示されるようになった。データを送ってくるのは僕の上半身に密着した肌着。電気を通す直径700ナノ（ナノは10億分の1）メートルのポリエステル繊維製で、軽さは普通の肌着と変わらない。東レとNTTが開発したウェアラブル・センサー付き衣料「hitoe」だ。

心臓や筋肉が動くと発する電気信号を肌着が感知し、心拍数のほか、体への負荷やリラックスの程度なども、顔型のアイコンで教えてくれる。僕の心拍数はおおむね75から85で、アイコンは笑顔の時が多い。ストレスが少ない職場ということだろうか。

僕は東京・中央の東レ本社を訪ねた。「見える化できなかった生体情報を日常生活でデータにできれば、衣料品の世界は大きく広がる」。機能製品事業部の浅井英主任部員（41）はこう予見する。

□

究極の生体情報は脳波だ。脳は1千億個超の神経細胞から電流が出ており、波形をみれば喜怒哀楽や快不快といった感情が分かるという。電流が微弱なので繊維センサーによる感知はできないが、技術革新で可能になれば「一人ひとりの生体にあった衣服の個人化が始まる」（浅井氏）。

例えば季節の変わり目に何を着るか迷ったとき、自分の生体情報を基にその日を最も快適に過ごせる服を判断できる。また、仕事の疲れが残っていたり微熱があったりするときには、少しでも体調が良くなる着こなしを提案してくれることも夢ではない。

逆に、どんな服や小物を身につけたときに、自分がリラックスできるかや良い笑顔になれるかを、客観的に把握できるかもしれない。大事なデートの日や仕事で一番の日になんな服を選べば、相手に好印象を与える可能性が高まる。まるで自分が知らなかった自分をまとう感覚だ。

衣服を介した生体情報は企業にとっても大きな価値がある。例えばライブ会場や観光地などで、来場者がどれだけ楽しんでいるのかを把握できれば、サービスの改善や新企画の提案に生かせる。

こうした未来を予見させるのが、日本IBMによる人工知能（AI）「ワトソン」を使った服づくりだ。昨年9月のファッションイベントに電装のドレスを出品。「カワイイ！」といった来場者のツイッターのやりとりをワトソンが解析し、感情の動きに合わせてドレスの色を変えた。吉崎敏文ワトソン事業部長（55）は「何十万通りの服と感情のデータをマッチさせれば“私だけの一着”が出てくるかもしれない」と話す。



ファッション専門学校「エスモードジャパン」卒業生の作品。縫製が少ない衣服が未来のファッションとなるか(東京都渋谷区)=寺沢将幸撮影

健康状態や気持ちを衣服が常に関わり、生活を楽しむ時代。コミュニケーションも円滑になり対人関係での失敗も減り、平穏で快適な日々を過ごせるのだろう。だが、衣服が発する「もう一人の自分」に従うだけで、本当に面白いのだろうか。思いがけない発見や違和感があり、時に不快さがあるからこそ、僕は自分を楽しめる。「自分の知らない自分」は見えずぎてもいけないのではないか。

□

では衣服のデザインはどう変わるのか。ファッションに詳しい女性記者（25）に、ファッション専門学校のエスモードジャパン（東京・渋谷）を訪ねてもらった。

クリエイティブディレクターのフランク・ジョソームさん（52）は「大衆向けの服はユニセックスで誰もが着られるものになる」と予想する。そのイメージに近いという卒業生の作品を見せてもらった。パンツは2枚の布を縫い合わせただけ。サイズは大きめで、色は全て白。コンセプトは「人に優しい服」だ。

着てみると軽くてふわふわとしていて、縫い目が少ないので着心地がいい。多様な人種の在校生にも着てもらったが、シンプルな白いデザインにそれぞれの顔立ちや立ち振る舞いが映え、着る人によって「きれい」にも「かわいい」にもなる。自分と服の境界がなくなり、個性が際立つのかもしれない。

デザインがシンプルな方向に収束し、AIや3Dプリンターなどの技術が普及すれば、手ごろな価格で着られるようになるだろう。皆がシンプルな服を選び、AIが勧める着こなしをする時代には、逆に個性的な服で自己主張をするのはぜいたくな行為になるかもしれない。そうした個性は必ず残るはずだ。それが社会に多様な刺激を与え、活力を呼び起こすのだから。

ポスト平成の未来学

第4部 暮らし新潮流 体の信号 感じる服

究極の生体情報は神だ。

脳は十億個超の神経細胞から電流を流して、波動をみわたる。電気的、化学的、熱的、感覚は繁榮衰へ快不快といった感が分かっていく。電流が微弱なところでは繊維セラーにまで知能はできないが、技術革新で可能になれば「二人ひとりの生体にあるたがひの個人」が生まれる。（茂井研）

例えは季節の変わり目に何を着たか迷ったとき、自分の生体情報を基にした最も適切な服を過（か）る服を断（き）り捨てる、また、仕事の疲れが残っていたり微熱があったりする

多い。ストレスが少ない職場というところだろうか。

僕は東京・中央の東レ本社を訪ねた。「見える化」でできなかった生体情報に日常生活でデータにできれば、衣料品の「世界は大きく広がる」。機能製品事業部の浅井英主任部員(41)はこう見する。

衣料「hitoe」だ。心臓や筋肉が動くこと発する電気信号を肌膚が感知し、心拍数のほか、体への負荷やリラクスの程度なども、顔型のアイコンで教えてくれる。僕の心拍数はおおむね75から85で、アイコンは笑顔の時は

1月下旬、僕(41)のタブレット端末に毎日、自分の心拍数がリアルタイムで表示されるようになった。データを送ってくるのは僕の上身に密着した肌着。電気を通す直径700μm(それは10億分の1)のポリエステル繊維製で、軽さは普通の肌着と変わらない。東レとNTTが開発したウェアラブル・センサー付き

体調管理 感情もまとう

崎文「何万回もの眼と感情の
 だけは」著が出てくるかも
 しれないと語。
 健康感や気持を衣服が
 能に感じ取り、生活を楽しむ
 時代、「ミニエゴ」も
 持ち、性別・環境の失敗
 も取り、快適な生活
 を「せ」のう。
 果が発するも「人の目
 に従うが、本当に自分
 が見たいか、思が不
 見や進程があるか、時不決
 さがあるから、僕自分

にもなる。個性が際立
 なくなる。自分服
 もいい。
 デザインがシンプル
 に取戻し、Aと3P
 ターナーの技術が及
 ば、手は不器用な
 ようになるが、情が
 力な走ると、時に
 する者なを、Aが
 逆に個性的で自主
 するのせいに、さ
 せんないない。な
 社会に必要ない
 性は秘蔵の教をえ
 力を呼び出すのだから

この提案を予てさせる
の、日本 B.M. にある人工
知能(AI)「アニー」を
使った服づくり。昨年9月
のファッションイベントに電
装のドレスを出品、「カワイ
イ」とした来場者の「サイ
ターのり」を、ストン
にそれぞれの顔立や立
姿の違いが映える。着るに
て「無機」にもかわ

る。まるで自分知らなかった。目を見てもう感動した。衣服をまじえて体慣れは企業にとても大切な価値がある。例えばライオン製や観光地などで、来場者がよく買いたがるのがその好例だ。うれしく、そのなかで把握できた。サビーの改善や新企

クリエティブ・スタイルの「ワンク・ウォー」(22)は「大衆向けにユニセックスで誰かが着るものになる」と想うその「メー」に近いといふ業生の一品を見せてくれた。パンツは女の布を

と意には、少しでも調子が良くなるまで、少しは我慢して、
かき合ひを止めては置きてし
てゐる」と意ではない。

逆に、どんな服や小物を身
につけたら、自分がラク
なッスでいいのか、良笑顔に
なれるかを、客観的に把握で
きるかも知れない。大事なの
は、その日の行事で、一番の日
にそんな服を選べば、相手の
印象をよくする可能性が高ま
る。

では衣服のデザインは
変わるのか、ファッション
詳しい女性者(28)に
アツシヨ、専門学校教
員ドジャボ(東京、浜
を訪ねた)。

A fashion studio set for a photoshoot. Three models are posed in white outfits against a black backdrop. A woman stands in the center, a man sits to her right, and another woman crouches to the left. A large umbrella light is on the left, and a staircase with mannequins in white outfits is in the background.

ファッション専門学校「エスモードジャパン」卒業生の作品。縫製が少ない衣服が未来のファッションとなるか（東京都渋谷区）＝寺沢幸雄撮影